

上田仮説サークルニュース		12月例会	2015. 12号
編集責任 遠藤 裕		発行2016. 1. 23	
〒383-0041 中野市岩船426-3 サングァーデン中野 B-G		TEL 0269-23-2847	携帯 090-1406-9115
メール endo-h@cronos.ocn.ne.jp		勤務先 長野工業高校	TEL 026-227-8555

12月19日(土) 上田市中央公民館 3F第1・第2学習室
午後3:00～6:00



参加者数 8名 資料総ページ 74ペ

<参加者> 増田伸夫さん, 北村知子さん, 大塚浩文, 渡辺規夫さん, 池田みち子さん, 望月久和さん, 柳沢克央さん, 遠藤裕

はじめに 12月例会の参加者は8名。

今回は終了後忘年会もあり, 午後6時過ぎには終了しました。

発表は, 増田さんから3本, 北村知子さんから1本, 渡辺さんから3本, 柳沢さんと望月さんからそれぞれ1本。合計9本の発表がありました。

増田さんは中東やイスラムに関係する本の書評。知子さんは<ものとその電気>の評価感想。渡辺さんは授業プリント, 上田自由塾のまとめ, 板倉さんの文章の紹介。柳沢さんは卒業生への言葉。望月さんは, 小諸市民大学での講義を編集し紹介。

終了後, 「なぶら」(東急REIホテル1階)で忘年会。10名出席。

1. 発表資料

① サークルニュース 11月例会 遠藤 裕 (8ペ)

1. 発表資料

- ① サークルニュース 10月例会 遠藤 裕 (10ペ)
- ② 板倉：世界の科学教育の保守化と原子論の勝利 増田伸夫さん(8ペ)
－理科教育変遷史(5)(中等教育②)－
- ③ 板倉：時代とともに大きく変わった中等理科 増田伸夫さん(8ペ)
－理科教育変遷史(6)(中等理科教育史概観)－
- ④ [書評] 世界史を類比的にとらえることで現代を読み解く 増田伸夫さん(20ペ)
佐藤 優著『世界史の極意』(NHK出版新書)の書評。
- ⑤ [書評] 「需要」から「産業革命」を読み解く本 増田伸夫さん(4ペ)
北川 稔著『イギリス近代史講義』(講談社現代新書)の書評。
- ⑥ スーパーカミオカンデを見たい 北村知子さん(4ペ)
今年のノーベル物理学賞のニュースを聞いての思いと, 新聞記事の紹介。
- ⑦ コーヒーカップの謎の解明 渡辺規夫さん(8ペ)

「インスタントコーヒー効果」についての論文の紹介。

⑧ 追悼文 牧衷さんありがとう 渡辺規夫さん（3ペ）

渡辺さんの牧衷さんへの追悼文。

⑨ まちかど科学クラブだより号外 渡辺規夫さん（4ペ）

来年度の「まちかど科学クラブ」開講について。

⑩ ホールピペットと卒業と 柳沢克央さん（1ペ）

卒業するクラスの生徒に贈る言葉。

② 【書評（要約？）】「索引」つきで事典のように使える本 増田伸夫さん（24ペ）

『歴史図解 中東とイスラーム世界が一気にわかる本』の書評・要約

『歴史図解 中東とイスラーム世界が一気にわかる本』

（宮崎正勝著）（日本実業出版社）（2015年6月1日初版発行）（本体1500円（税別））（宮崎正勝著『早わかり 中東&イスラーム世界』2006年 日本実業出版社刊 のリメイク版）

増田さんは、「まえがき」で次のように書いています。

ミニ問題集「イスラム教とアラブ」を作りたいと思って今年の8月に中野市立図書館へ行き、3冊借りてきた本のうちの1冊が宮崎正勝著『早わかり 中東&イスラーム世界』でした。ざーっと読んでから、買うに値する本だと思い、注文しようとしたら、リメイク版（本書）が出ていたので、本書の方を購入しました。

イスラムの通史を知るにはとても良い本で、イスラムについての基礎知識の詰まった本だと思います。特に巻末に「索引」がついているので（『今月のお話』にも「索引」をつけたいと思っている）まるで事典のように使える本です。

著者は高校教諭～筑波大学講師～北海道教育大学教授を経て、現在はNHK文化センター等の講師。

書評を書けるほど基礎知識がないので、書評ではなく、要約を書いていきたいと思います。

◇はしがき

◇序章「見えにくい中東をクリアにする」

◇第1章 「中東とは イスラーム世界とは」

◇第2章 「多様な顔を持つ中東世界」

◇第3章 「イラン人が覇権を握った1000年間」

◇第4章 「アラビア半島から姿を現したイスラーム教」

◇第5章 「イスラーム帝国の誕生」

◇第6章 「ユーラシアに広がる大商業圏」

◇第7章 「大平原から再編された中東」

◇第8章 「オスマン帝国の解体」

◇第9章 「英仏による中東の分割」(ヨーロッパ諸国)

◇第10章 「第二次世界大戦後の中東世界の激動」(中東の自立と混迷)

(このところ増田さんはイスラム関係の本をいろいろ紹介してくれています。まずどの本を読んだらいいか迷っている人には大変参考になります。「イスラムに通史を知るにはとても良い本」のようです。 エトダ)

③ 【書評】対話なき武力行使で紛争解決はできない 増田伸夫さん (4ペ)

『イスラム戦争 中東崩壊と欧米の敗北』の書評。

内藤正典著『イスラム戦争 中東崩壊と欧米の敗北』(集英社新書)(2015年1月第一刷 2015年2月第四刷発行) 定価:本体760円(税別)

著者は現在、同志社大大学院教授。東大教養学部教養学科科学史・科学哲学分科卒。

増田さんは「まえがき」で次のように書いています。

この本で著者が言いたいことをヒトコトでまとめるなら、「欧米の間違いだらけの中東政策によって中東は崩壊し、欧米は<テロとの戦い>に敗北し、ISを生み出した。いまや対話なき武力行使によって紛争を解決することはできない。イスラムを巡る問題も、まずはイスラムや中東についての基礎知識を身につけ、ムスリムの心情を深く理解した上で対処しなければいけない。トルコに学べ」ということになると思う。

ただし、著者本人の政治的な発言や思い入れ(集团的自衛権、安保法制など)が多いのが気になった。

思いつくままに、この本の感想(いや要約か?)を書いてみたい。

◇「はじめに」:日本は決してこの戦争に参加してはならない

◇序章「中東で起きていること」(ISとトルコ)

◇「16億人のムスリムを味方にするか、敵に回すか」(「間違ったアメリカ中東政策」とは?)

◇なぜ失敗を繰り返すのか(イスラム嫌悪)

◇欧米報道のバイアス(「容疑者」「イスラム原理主義」「ジャーハード」)

(「対話なき武力行使で紛争は解決できない」、まったくその通りだと思います。今の日本の政治状況を見ていると、もっと声を大にしていきたいですね。 エトダ)

④ 【書評】ISのこと(来歴, 思想, 組織)がよくわかる本 増田伸夫さん (12ペ)

書籍『イスラーム国の衝撃』の書評。

池内^{さとし} 恵 著『イスラーム国の衝撃』(文春新書)(2015年1月20日第一刷 2015年1月30日第三刷発行) 定価:本体780円(税別)

著者は現在、東京大学先端科学技術研究センター准教授(イスラム政治思想分野) 著書多数

内藤正典『イスラム戦争』とは対照的に、本書には著者の政治的発言や思い入れはほとんど出てこない。できるだけ客観的に分析し、あまり断定的な言い方は避けたいというそぶりは感じられる。巻末には9ページに及ぶ参考文献が記載されていて、内藤正典『イスラム戦争』や宮崎正勝『中東とイスラーム世界が一気にわかる本』との違いが際だつ（そういえば川北稔『イギリス近代史講義』や佐藤優『世界史の極意』にも参考文献の記載があったな）。

内藤正典『イスラム戦争』が、欧米に手厳しくイスラーム世界に同情的なのに対して、池内恵『イスラーム国の衝撃』では欧米の問題だけでなく、＜中東やイスラーム世界に深く内在する原因がある＞と言っていて、イスラーム世界に厳しく、欧米の中東政策に対する批判は弱い。

本書は、ISについてはとても詳しく分析されていて、＜ISについてよくわかる本＞であることは間違いないが、そのことに局限しているためか、あまり広がりを感じられずに物足りないとも思った。

思いつくままに、この本の感想・（要約か？）を書いてみたい。

<内 容>

- (1) イスラーム国の衝撃（何がISをもたらしたのか）
- (2) ISの来歴（グローバル・ジハード運動の展開）
- (3) 甦るイラクのアル＝カイダ（宗派分断的手法）
- (4) 「アラブの春」で開かれた戦線（IS台頭の要因）
- (5) イラクとシリアに現れた聖域－「国家」への道
- (6) ジハード戦士の結集（近代のジハード主義とは）
- (7) 思想とシンボル＝メディア戦略
- (8) 中東秩序の行方

< 2014 ISの伸長とISの今後 >

< 中東秩序の行方 >（事態を收拾する選択肢は）

増田さんは最後に次のように書いています。

やはり、本書の要約のようになってしまった。この本は欧米の中東観をよく表しているかも知れない。この中東観が欧米中枢の標準なのかも知れないが、その欧米寄りの姿勢は内藤正典『イスラム戦争』に出てくるイスラム・フォビア（イスラム嫌悪）を増幅しかねないとも思った。姿勢の異なる2つの本を読んだことはよかったと思う。

（姿勢の異なる2つの本。比較して読んでみると、中東についての認識が深まりそうですね。少しでもいいので紹介された本を読んでみたいと思います。 エドワ）

⑤ パワーポイント版くものとその電気> 北村知子さん (4ペ)

くものとその電気> (パワーポイント版) での授業の評価と感想。

授業が終わったばかりで、急いでまとめてくれたようです。中学での授業で、2時間。授業書を配る時間が省けてよいとのこと。評価は<楽しさ度><ためなり度>ともにほとんどの生徒さんが5と4の評価です。電気に+、-があることが驚きだったり、ネギの実験にはすごく驚いたようです。すごく楽しかった授業のようです。

<生徒さんの感想> ガラスやネギ、指や水も全てひき寄せられることが分かった。ガラスやネギは引き寄せられるだけだったけど、水は曲がっていてすごかった。

／ プラスやマイナスを近づけても、どちらにしても引き寄せられるのだなと思いました。長ネギもプラスやマイナスに反応したことに驚きました。水の実験は、水が急激に引き寄せられてしぶきがすごかったです。静電気を起こす物にも興味を持ちました。

／ いろいろな実験をして予想があつてたりして楽しかったです。ガラスや長ネギが引き寄せられた時は楽しかったです。引き寄せられないと思った物も引き寄せられて驚きました。これらの実験はとても楽しかったです。

<知子さんの感想>

塩ビ管で蛇口から出てくる水の流れをコントロールするのが、よほどおもしろかったのか、授業後も理科室に残って、水に近づけている子が何人もいました。

ガラス棒のような絶縁体、ネギのようなナマものでも、とにかく原子でできているから、当然のごとく電子を持ち、電子が移動して塩ビ管に引きつけられるんだと分かって面白かったようです。

(やはり仮説の授業は生徒さんが生き生きと授業に参加しており、教えている方も楽しいですね。

エンドリ)

⑥ 物理実験 弦の固有振動 渡辺規夫さん (2ペ)

物理の生徒実験用プリントの紹介。

実験の目的は「弦を固有振動数と等しい振動数で振動させるとよく振動することを確かめる。」とあります。渡辺さんは実験用の長いバネを持ってきてくれ、実演をしてくれました。最初に波を送って往復する時間を計って、これと同じ周期の振り子を作り、この振り子の振動数と同じ振動数でバネの端を振動させるのがコツのようです。このときバネに基本振動ができるとのこと。

【実験のやり方】

1. ばねの両端を持って、波を送り、波が往復する周期と等しい周期の振り子を作る。
2. 振り子を振動させ、その振動数と同じ振動数で、ばねの端を振動させる。
(手を小さく動かすのがコツである。)

このとき、ばねが固有振動することを確かめる。このときの振動を基本振動といい、このときの振動数を固有振動数という。

3. 固有振動数と少しずらした振動数の振り子をつくり、それに合わせてばねの端を振動させたとき、あまりよく振動しないことを確かめる。

4. いろいろな振動数で振動させて、基本振動数以外に固有振動する振動数を探す。

(長いバネを使っての定常波の実験。授業で簡単に見せたりすることはありましたが、やり方にコツがあったとは。やはりベテランの先生方から実験のコツを学ぶことが大切です。逆にベテランの先生方は若い先生方にコツの伝授を。 エンドり)

⑦ 上田自由塾 子ども向け冬季講座 まとめ 渡辺規夫さん (3ペ)

12/5に行った「子ども向け冬季講座」のアンケート結果とまとめ。

講師は渡辺規夫さん、アシスタントは大塚浩文さんと渡辺町子さん。参加者は、保護者4人、子ども7人(内年少2人)の合計11人。

講師のアンケート結果 <たいへんたのしかった>が6人、<たのしかった>が1人。<たいへんよくわかった>が6人で<わからなかった>が1人。参加者からはたいへんよい評価を得ており、大成功の講座だったようです。

<講座の内容>

大道仮説実験《びりりん》	50分
休憩	10分
ライデン瓶づくり	15分
紙芝居《フランクリンの塩ビ管こすり》	10分
アンケート回答	5分

<渡辺さんのまとめ>

この時間配分はよかったようである。

年少組の子どもには難しすぎるのではないかと心配であったが、理論的な説明は別にして、予想を立てること、実験を楽しむことは年少組の子どもにも楽しめたようである。とりわけ、ライデン瓶の実験には年少組の子が「おれがやる、おれがやる」と言って聞かなかつた。よほど興味をもったのであろう。実験や説明にいくつか不手際があったが、講座全体としては成功であったと思う。

(渡辺さんは高校での講師をやりながら、上田自由塾での講師も。エネルギーがありますね。上田自由塾では、学校で授業をするのとはまた違った経験なんだろうと思います。これからも多くの子どもさんたちが参加してくるといいですね。子どもさんたちが喜ぶ顔が一番。 エンドり)

⑧ すべての子どもに科学を ^{あかしこ}吉村 証子を語る 渡辺規夫さん (8 ペ)

板倉さんの未見の資料の紹介。

渡辺さんは資料に次のようにメモ書きをしてあります。「板倉さんの未見の資料を発見しました。仮説実験授業の成立前後のことを知る貴重な資料です。」

『すべての子どもに科学を—吉村証子を語る—』(1980/4/23 発行, 発行者「吉村証子を偲ぶ会」, 製作: 中央公論事業出版) という本に, 板倉さんが「吉村さんと私と科学読物」という文章を寄稿されています。

文章は「吉村証子さんと私とのつきあいはそう深いものではない。しかし, 考えてみると, 吉村さんと私とのつき合いはずいぶん長いことになる。しかも, いろいろな面でおつき合いいただいたことになる。」から始まっています。板倉さんが大学院生のころ, 頼まれて「女子理科学生の会」に顔を出したのが吉村さんとを結びつけるきっかけに。その後, 吉村さんは女性科学者の実態調査や女性科学者の歴史について研究をはじめられるようになった。科学読物に関する面でも執筆を依頼するなどつき合いは古い。1964年にはたくさんの本を出すことができ, それからまもなく吉村さんのはじめた「科学読物研究会」も軌道に乗ることになる。吉村さんは仮説実験授業研究会の通信会員にもなって下さって, タイプ印刷版の『仮説実験授業研究』を購読して下さった。それでも私は忙しすぎて吉村さんたちの科学読物研究会の仕事の応援する心の余裕さえもちえなかった。・・・しかし, それでもやはり私には心に期すところがある。日本の科学読物の歴史を明らかにする仕事がある。少しずつではあるが, もうかれこれ二十年あまりの間, 資料を集めてきたので, 今では日本の科学読物の歴史全体のイメージもかなりつかめてきたような気がする。その仕事を完成したなら, 吉村さんもさぞかし喜んでくれるだろう。

(板倉さんは 1964 年が一つの転機の年だったといっています。その年に多くの本を出版。前年にはじめた仮説実験授業の研究が軌道にのり, その研究に全力を傾けるため, それまでの科学史の研究や科学読物の執筆から手を引くことを決意したそうです。 エドワ)

⑨ 子育ては「平穩無事」がよく似合う 柳沢克央さん (1 ペ)

柳沢さんの「卒業にあたってのお祝いの言葉に代えて」の文章の紹介。

柳沢さんの朝起きてから学校へ行くまでの日常生活の繰り返しとクラスの生徒たちとの学級生活の繰り返しがオーバーラップして書かれています。柳沢さんの子どもの成長と生徒たちの成長も重ね合わさり, ご家族への感謝, 生徒の努力, 社会での活躍への期待が記されています。

(3年間担任をしていると, 家庭とクラスが重なって見えてくることが多いでしょうね。 エドワ)

⑩ どうなる？世界の経済・日本の経済 望月久和さん（8ペ）

～一人ひとりが大切にされてこそ経済～

小諸市民大学（8/7）でおこなわれた浜矩子氏の講義の紹介。

望月さんは小諸市民大学の運営委員をしており、望月さんの推薦で浜矩子氏（同志社大学大学院教授，エコノミスト）の講義が実現。講義が実現した経過と編集した講義内容をサークルで紹介してくれました。

<小諸市民大学での講義実現経過と当日の様子>

私の推薦で小諸市民大学運営委員会にて浜矩子さんに講義依頼することが決定。（私は御本人とは何の面識もなし）。同志社大学の浜さんの研究室に2014/11/27に直接メールをしたところ、返事が早速当日にあり、「日程さえ合えば可」とのことでした。その後何度かやりとりをし、結局最終的に大学が夏休みになる2015/8/7に講義が決定しました。私が驚いたのは大学の講義のほか、全国での講演，メディアの出演，新開や書籍の原稿執筆で忙しい浜さんとのやり取りがすべて1時間以内に決まったことでした。直接会った時にそのことを聞いたところ、「秘書がいないのですべて自分でやっている。いろんなことが同時に進行しているので、必ずメールはすべてこれまでの過去のやりとりを含めて送ってほしい」とのことでした。

当日は中央公民館の講義室がいっぱいとなる約130名が受講。当初浜さんは「2時間の講義すべてが質疑応答で良い」とおっしゃいましたが、それでは・・・ということで前半は基調となる講義。後半は質疑応答としました。聴講生からの質問は続出し、帰りの新幹線の時間に間に合うか、冷や冷やするほど熱気にあふれた諫義となりました。

<講義概要>

1. はじめに

第一の論点「アベノミクスをどのようにとらえるのか」、第二の論点「格差をどのように考えるか」

2. 「アベノミクス」をどう評価するか

経済政策が目指すものは大きく分ければ二つ。第一の目標はくずれたバランスを修復すること。第二の目標は弱者救済。これこそが本来表裏一体になっている二つの解決すべきテーマ。ところが安倍首相においては経済政策が外交政策の道具になっている。

3. 「アベノミクス」を超えていくために

「アベノミクス」の向こう側に行くために。ポイントは三つ。第一は原点回帰、第二はバランス感覚、第三は三つの道具。

4. 質問に答えて Q1～Q9

（望月さんの編集された講義内容は非常にわかりやすいです。原稿なしの講義で、望月さんにいわせると牧さんの講義に似たところがあるそうです。4月例会で小諸市民大学の講座内容を紹介してい

ただいたとき、浜矩子さんの講義には是非出席したいと思ったのですが、クラブ指導がありだめでした。『国民なき経済成長一脱アホノミクスのすすめ』という本を買ったのですが、読むのが途中になっています。「アホノミクス」なんていう言葉を作るほどの方ですから、きっと迫力ある講義だったことと思います。 エトウ

あとがき 今年の冬は雪が少なく、楽をしています。スキー場などは雪が少なくて大変だろうと思いますが。



1月に入って、長いこと台所の水の流れが細くお湯が出なくなってしまっていたのを直してもらうため、水道屋さんに来てもらいました。結局1回では終わらず、3回来ていただくことになりました。見ていると、水道管の中は見えないので、たぶんこうではないかという予想を立てながら修理をしているようです。最初は蛇口近くのパッキングがだめということで蛇口の交換、それがだめで、3回目に立ち上がってくる途中の部分が詰まっていることがわかりようやく解決。修理という仕事も仮説実験的にやっているということがわかり、仕事としてはとっても面白そうに感じました。(実際は大変な仕事だと思いましたが。)

★ 今後の予定 ★

2月20日(土)

3月19日(土)

4月23日(土)